

企画展

あいちの発掘調査

2023



- 宮後城跡(江南市)
- 天王塚遺跡(小牧市)
- 扶桑北窯跡(瀬戸市)
- 朝日遺跡(清須市・名古屋市西区)
- 名城公園遺跡(名古屋市)
- 熱田B遺跡(名古屋市)
- 井ヶ谷古窯跡群(刈谷市)
- 池田遺跡(岡崎市)
- 中狭間遺跡(安城市)
- 三河国分寺跡(豊川市)
- 境松・若宮遺跡(豊橋市)

AICHI ASAHI SITE MUSEUM
あいち朝日遺跡ミュージアム

はじめに

愛知県内では、毎年多くの遺跡で県や市町村等による発掘調査が行われており、貴重な発見が相次いでいます。今回の企画展では、扶桑北窯跡(瀬戸市)、天王塚遺跡(小牧市)、名城公園遺跡(名古屋市)、井ヶ谷古窯跡群(刈谷市)、中狭間遺跡(安城市)、境松・若宮遺跡(豊橋市)、三河国分寺跡(豊川市)など、県内各地で行われた最新の発掘調査の出土品を展示します。

展示は、県内各地の遺跡の発掘調査を実施し、大きな成果を挙げてきた公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター(弥富市)の協力を得て、考古学の視点から県内各地域の歴史を概観できる展示となっています。

目次

はじめに	2
朝日遺跡、名城公園遺跡、中狭間遺跡	3
扶桑北窯跡、天王塚遺跡	4
宮後城跡、熱田B遺跡	5
井ヶ谷古窯跡群、池田遺跡	6
境松・若宮遺跡、史跡三河国分寺跡	7
発掘調査の手順	8

凡例

- ・本書は2024年1月20日(土)から3月10日(日)まで、あいち朝日遺跡ミュージアムで開催する企画展「あいちの発掘調査2023」の展示パンフレットである。
- ・本展覧会は、愛知県から委託を受けて公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター(以下、愛知県埋蔵文化財センターと記す)が企画した。
- ・本書の構成と実際の展示構成は異なる部分がある。
- ・掲載写真のうち、撮影機関と提供機関が同一の場合は提供機関のみを記載した。
- ・調査成果の紹介文は、調査機関から提供を受けた原稿をもとに、愛知県埋蔵文化財センターが取りまとめた。
- ・本書のデザイン、イラスト画は小川敦子が行った。
- ・本展覧会の開催にあたり、下記の機関・個人の協力を得た。
愛知県埋蔵文化財調査センター、岡崎市教育委員会、公益財団法人瀬戸市文化振興財団、江南市教育委員会、小牧市教育委員会、刈谷市歴史博物館、豊川市教育委員会、豊橋市教育委員会、名古屋市教育委員会
池本正明、河合君近、河野あすか、楠敬介、瀬瀬茂、城ヶ谷和広、鈴木涼平、田中芳樹、永井邦仁、平山優、村上昇

表紙：左上：扶桑北古窯跡／古瀬戸灰釉四耳壺出土状態／鎌倉時代／瀬戸市提供
左下：名城公園遺跡／パレス・スタイル壺など掘削作業／弥生時代後期から古墳時代前期／愛知県埋蔵文化財センター
右上：朝日遺跡／パレス・スタイル壺／弥生時代後期／愛知県埋蔵文化財センター
右下：朝日遺跡／パレス・スタイル壺掘削作業／弥生時代後期／愛知県埋蔵文化財センター

朝日遺跡

注目ポイント パレス・スタイル壺に彩色された赤色と黒色が交互に配列された斑点文様

清洲ジャンクション付近の2004(平成16)年の発掘調査で出土した弥生時代後期の壺です(3-1)。パレス・スタイル土器はベンガラなど赤色顔料を塗布した尾張地域に特有の装飾土器です。写真のパレス・スタイル壺は、赤色に加え黒色による装飾があり、赤と黒の斑点が交互に配列されています。最近、この壺の文様について天文学の視点から改めて解釈しようとする説があります。



3-1 パレス・スタイル壺出土状態

所在地 清須市朝日、名古屋市西区ほか

時代 弥生時代から古墳時代

遺跡種別 集落

主な出土品 銅鐸・玉類製作関連品・土器・石器・骨角器など

調査機関 愛知県埋蔵文化財センター

名城公園遺跡

所在地 名古屋市北区名城1丁目

時代 弥生時代から奈良時代、江戸時代

遺跡種別 集落、庭園

主な出土品 土器・陶器・瓦

調査機関 愛知県埋蔵文化財センター

注目ポイント 弥生時代終末～古墳時代初頭のパレス・スタイル土器などがまとまって出土

2022(令和4)年度の発掘調査の結果、古墳時代後半期の竪穴建物、江戸時代の下御深井御庭の庭園遺構など多くの調査成果がありました。写真(3-2)は、調査区中央の河道東側(右岸)から出土した弥生時代終末～古墳時代初頭の土器です。河川堆積によって形成された微高地の縁や凹地に土器を廃棄していたとみられます。そこからパレス・スタイル土器をはじめ、台付甕、ミニチュア土器などがまとまって出土しました。



3-2 パレス・スタイル土器出土状態

中狭間遺跡

所在地 安城市桜井町

時代 弥生時代から鎌倉時代

遺跡種別 集落

主な出土品 土器・石器

調査機関 愛知県埋蔵文化財センター

注目ポイント 赤色顔料を精製した片口鉢と台石

写真(3-3)は、弥生時代の代表的な墓、方形周溝墓の溝から出土した片口鉢と台石です。これらは赤色顔料が付着しており、顔料を精製する道具として使用されたと推定されます。この赤色顔料は蛍光X線分析の結果から辰砂(しんしゃ)を材料とする水銀朱と判明しました。辰砂の産地は愛知県設楽町津具、三重県多気町丹生、奈良県宇陀市菟田野などが知られており、貴重な顔料です。



3-3 片口鉢と台石

扶桑北窯跡

注目ポイント 窯操業時期以前の古瀬戸
灰釉四耳壺が完形品で出土

扶桑北窯跡の発掘調査では、瀬戸市東部の「赤津区」にある無釉の日常雑器「山茶碗」を焼いていた残存状況の良い窖窯2基と失敗品などを廃棄する灰原が確認されました(4-1)。調査の結果、出土遺物のほとんどは無釉の山茶碗と小皿でした。ところが注目される出土遺物に灰原の最下層から出土した完形の古瀬戸灰釉四耳壺があります(4-2)。2基の窯はいずれも無釉の製品のみを焼いた窯です。山茶碗窯でも窯道具として利用するために古瀬戸製品が持ちこまれる場合があるため、古瀬戸製品の出土自体は珍しくはありません。しかしそれらの例は破損品の再利用であるのに対し、今回出土した壺は扶桑北窯の操業以前の時期に作られた完形品です。山茶碗窯から完形の古瀬戸製品が出土した事例は初めてで、何らかの祭事に使用するため持ち込まれた可能性もあります。

所在地 瀬戸市山路町
時代 鎌倉時代
遺跡種別 窯跡
主な出土品 山茶碗・小皿・古瀬戸灰釉四耳壺
調査機関 (公財)瀬戸市文化振興財団



4-1 扶桑北窯跡全景



4-2 古瀬戸灰釉四耳壺

天王塚遺跡

注目ポイント 区画溝とそこから2～3枚
重ねた土師器皿が並んで出土

天王塚遺跡は小牧市のほぼ中央、名鉄小牧線味岡駅から南東900mに位置します。遺跡の調査は2013(平成25)年から2023(令和5)年にかけて5次にわたり続いています。これまでの調査成果によって、弥生時代と鎌倉時代から江戸時代までの遺構と遺物が確認されています。なかでも注目されるのは2021～2022(令和3～4)年度の第3次調査(4-3)で確認された、戦国時代から江戸時代の初め頃の居住地を囲む区画溝とその内側から見つかった建物の柱穴跡です。柱穴は柱を支える根巻石が残る穴や柱の一部が残る穴もあり、遺存状態が良好でした。区画溝の屈曲する箇所から瀬戸美濃産施釉陶器、土師器鍋、土師器皿など多くの遺物が出土しました。そのうち土師器皿の出土状態は注目されます。3箇所並んで各々2～3枚重ねた状態で故意に置かれた可能性があります(4-4)。

所在地 小牧市大字文津
時代 鎌倉時代から江戸時代
遺跡種別 集落
主な出土品 山茶碗・陶器・土師器
調査機関 小牧市教育委員会



4-3 第3次調査完掘状況



4-4 土師器皿出土状況

宮後城跡

注目ポイント 鎌倉時代の「八」と墨書された
山茶碗と山皿がまとまって出土

所在地	江南市宮後町
時代	鎌倉時代から江戸時代
遺跡種別	城館
主な出土品	縄文土器・灰釉陶器・山茶碗・石臼
調査機関	江南市教育委員会

宮後城跡は江南市の中央部、名鉄犬山線の江南駅と柏森駅の中間地点、線路の北側にある宮後八幡社の近くに位置します。発掘調査は、宮後城跡の内郭と推定される地点で2022(令和4)年11月から2023(令和5)年2月にかけて実施されました。調査の結果、宮後城跡に関連する堀と溝がA～C区に設定されたそれぞれの調査区から確認されました。A区では全長5.2m、幅3.5m、深さ1.5m以上の平安時代から鎌倉時代の堀が確認されました。B区では幅3m、深さ1.3mで溝の片側に石積みをもち、北から東へ屈曲する戦国時代の溝が確認されました(5-1)。これら2つの堀と溝、さらにC区で確認された鎌倉時代の溝は、平安時代から戦国時代まで3つの時期に変遷していたと推定できます。また、注目される出土遺物に、鎌倉時代の山茶碗と小皿底部外面に「八」と書かれた墨書陶器がC区などから8点出土しています(5-2)。

かしわもり



5-1 B区2面完掘全景



5-2 墨書「八」のある山茶碗

熱田B遺跡

注目ポイント 熱田社に隣接する鎌倉時代の
港町の存在を物語る遺物が出土

所在地	名古屋市熱田区伝馬町一丁目
時代	鎌倉時代
遺跡種別	集落
主な出土品	輸入磁器・山茶碗・土師器・箸・扇など木製品
調査機関	名古屋市教育委員会

熱田B遺跡は、名古屋市熱田区伝馬町一丁目、熱田神宮から南へ約200mに位置します。発掘調査は2021(令和3)年9月から10月に行われました。調査面積は200㎡に満たない狭い範囲でありながら、鎌倉時代を中心とする遺構と遺物が密集して確認されました。調査区中央に南北方向へ延びる低い土地に工夫された「道状遺構」は注目されます。道状遺構の構造は、中央の高い部分に植物を素材に編み込んだ「敷葉」とその両側に側溝を備えており、低地に対応する工夫を凝らした道でした。井戸は3基確認され、一つは縦板を方形に組んだ構造が残っていました(5-3)。柱・杭は調査区一帯で確認されていますが、一部の柱は倒された状態で見つっています。その理由は1498(明応7)年に発生した明応地震による災害の影響が想定されます(5-4)。出土遺物は一般集落で出土する山茶碗などのほか、輸入磁器、京都系土師器、常滑・渥美系大甕など、名古屋市域では出土例が少ない遺物も含まれています。これらの密集する遺構と特異な遺物のあり方から、熱田社付近に展開した港町の一角であった可能性があります。

てん まちよう



5-3 鎌倉時代の井戸



5-4 災害で押し倒された可能性のある柱

井ヶ谷古窯跡群

注目ポイント 半世紀前の発掘調査成果と
最近の詳細分布調査・確認調査

刈谷市の北部、豊田市の南西部には奈良時代から鎌倉時代にかけての古窯が76基見つかっています。これらをまとめて井ヶ谷古窯跡群と呼んでいます。刈谷市では、現在までに知られている窯跡の場所と残存状況の確認と、まだ知られていない窯跡の発見のため、2021(令和3)年度に1979(昭和54)年以来の現地踏査による窯跡の詳細分布調査を実施しました(6-1)。分布調査の結果、須恵器・山茶碗などの遺物が採集され、残存している窯や窯跡の可能性のある場所が確認できました。次いで2022(令和4)年は愛知教育大学内に保存されている松根第3号窯と第4号窯の確認調査を実施しました。第3号窯は窯体が2/3程度残存し、2回の操業とその後炭焼き窯として転用されていることがわかりました。第4号窯は窯の確認はできず、かつての調査で自然地形の窪みを窯跡と誤認した可能性があります。写真(6-2)は1967(昭和42)年、愛知教育大学建設に伴い発見された寺山下古窯出土の長頸瓶です。展示資料は刈谷市へ愛知教育大学から寄贈された資料から、井ヶ谷古窯跡群で盛んに生産されていた平安時代の灰釉陶器を選出しました。

所在地 刈谷市井ヶ谷町、東境町
時代 平安時代から鎌倉時代
遺跡種別 窯跡
主な出土品 須恵器・灰釉陶器・山茶碗
調査機関 刈谷市博物館



6-1 分布調査の様子



6-2 灰釉長頸瓶

池田遺跡

注目ポイント 4から5に区画された屋敷地と
常滑産羽釜の完形品

池田遺跡は、岡崎市西部、JR東海道線西岡崎駅から北東へ約1.5km、市内西部を南北に流れる矢作川右岸近くの自然堤防上に立地します。2022(令和4)年から2023(令和5)年にかけて6,372㎡が発掘調査されました。調査の結果、古墳時代から平安時代までの水田跡、鎌倉時代の火葬施設、屋敷を区画する溝とその内側に配置された掘立柱建物や井戸などの屋敷地、江戸時代の井戸が確認されました(6-3)。なかでも鎌倉時代の遺構と遺物が最も多く見つかっています。調査区の南東側ではL字に屈曲する幅約10mの大溝と一辺約30mでコの字に屈曲する幅約1mの小溝が確認されています。これらのうち小溝は調査区内を4から5区画で構成する屋敷地の区画溝と考えられます。これまでの岡崎市内の発掘調査では、中世屋敷地の実態が不明でした。今回の調査成果により方形に区画された溝とその内側に配置された建物や井戸(6-4)などの居住施設が明らかになりました。

所在地 岡崎市筒針町
時代 古墳時代から江戸時代
遺跡種別 集落、水田
主な出土品 須恵器・灰釉陶器・山茶碗・瀬戸美濃窯産陶器など
調査機関 岡崎市教育委員会



6-3 調査区全景



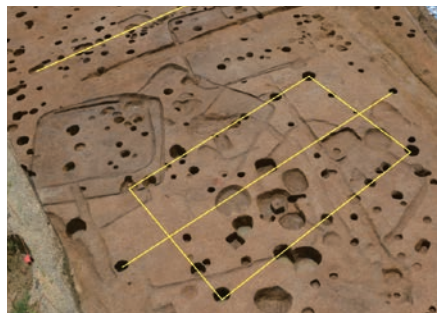
6-4 鎌倉時代の井戸出土状況

境松・若宮遺跡

注目ポイント 地域の拠点集落の
中心部分を調査

所在地 豊橋市牟呂町
時代 弥生時代から古墳時代
遺跡種別 集落
主な出土品 弥生土器・石器
調査機関 豊橋市教育委員会

境松・若宮遺跡は豊橋市の西部、豊橋市民病院から東へ約1kmに位置します。発掘調査は牟呂坂津地区土地地区画整理事業に伴う事前調査として2007(平成19)年度から2022(令和4)年度まで50,000㎡に及ぶ広大な面積を実施しました。そのうち、段丘面で最も標高の高い場所を中心に展開した弥生時代から古墳時代にかけての環濠集落を境松・若宮遺跡と呼んでいます。2010(平成22)年度の調査では、集落を大きく囲む環濠と集落内を区画する濠が確認され、注目されました(7-2)。発掘調査の最終年度となった2022(令和4)年度は、集落の中心部分にあたる地点を調査しました。その成果は、2017(平成29)年度に検出された6.4m×16.4mを測る大型掘立柱建物の全容が明らかになったことと、新たに確認された神殿と推定される床面積46㎡を測る東日本最大級の独立棟持柱建物の発見です(7-1)。いずれの建物も弥生時代から古墳時代前期初頭にかけて、地域の拠点集落であった証拠です。



7-1 独立棟持柱建物



7-2 分岐する溝

史跡 三河国分寺跡

注目ポイント 史跡整備の5ヵ年計画による
調査成果

所在地 豊川市八幡町
時代 奈良時代から平安時代
遺跡種別 寺跡
主な出土品 軒丸瓦・軒平瓦・奈良三彩火舎など
調査機関 豊川市教育委員会

三河国分寺跡は、豊川市の中央やや西寄り、名鉄本線国府駅から東へ1.2kmに位置します。国分寺跡と国分尼寺跡は1922(大正11)年に国史跡に指定され、100年が経ちました。1985(昭和60)年度からの断続的な発掘調査の成果と1988(昭和63)年度の「史跡三河国分寺・三河国分尼寺跡保存管理計画」に基づき進められてきた公有化事業は2021(令和3)年度にほぼ完了しました。そこで今後、三河国分寺跡の史跡整備を具体的に進めていくため、2019(令和元)年度から5ヵ年計画で確認調査を実施しています。2022(令和4)年度の発掘調査は、塔南面、南大門北西隅、中門、北出入口付近、金堂南側、(仮称)北西院内部、計6地点8ヵ所行いました。引き続き2023(令和5)年度の発掘調査は、南大門跡の規模確定、北出入口の検出、(仮称)北西院内の建物検出を行いました(7-3,7-4)。これまでの5年間にわたる調査は、今後進められる史跡整備計画事業に重要な成果となりました。



7-3 僧坊跡



7-4 塔跡



発掘調査の手順

歴史の研究のため、または工事で遺跡が壊れる前に記録・保存するために調査をします。

1. 表土を取り除く

ショベルカーなどを使って掘り進めます。

2. 遺構※を見つける

土の色や質の違いを見ながら、人の手で掘ります。穴や溝などの遺構の輪かくを見分け、記録しながら掘り上げます。

※遺構とは？

昔の人が残した生活のあと（住居・井戸・溝など）

3. 調査の記録

調査の様子や出土した遺物※などを写真撮影したり、遺構の大きさ、深さなどを測量して、細かく記録します。

※遺物とは？

遺跡から出た昔の文化を示す物（土器・道具・武器・装身具など）

4. 現地説明会

調査で見つかった遺構や遺物を現地で一般公開します。

5. 現地での調査終わり

掘った土を埋め戻し、発掘用具などすべての機材を現地から片づけ、調査が終わります。

6. 調査の記録や遺物を整理する

記録した図面や写真などを後に活用できるように整理して、内容をさらに調べます。

遺物は洗って、割れているものは貼り合わせ、図として記録したり、写真を撮影します。

7. 報告書を作る

調査の記録や出てきた遺物から調査成果をまとめ、本にして報告します。

8. 調査終わり

遺物や記録を整理・保管して、展示したり、研究に活用していただきます。



あいち朝日遺跡ミュージアム

■ 愛知県清須市朝日貝塚1番地 ■ TEL : 052-409-1467 ■ 駐車場 15 台

企画展

「あいちの発掘調査2023」

編集・発行：愛知県埋蔵文化財センター

あいち朝日遺跡ミュージアム

2024(令和6)年1月20日発行



AICHI ASAHI
SITE MUSEUM
あいち朝日遺跡ミュージアム

